

東久留米市財政危機宣言

破たん回避のために ⑦

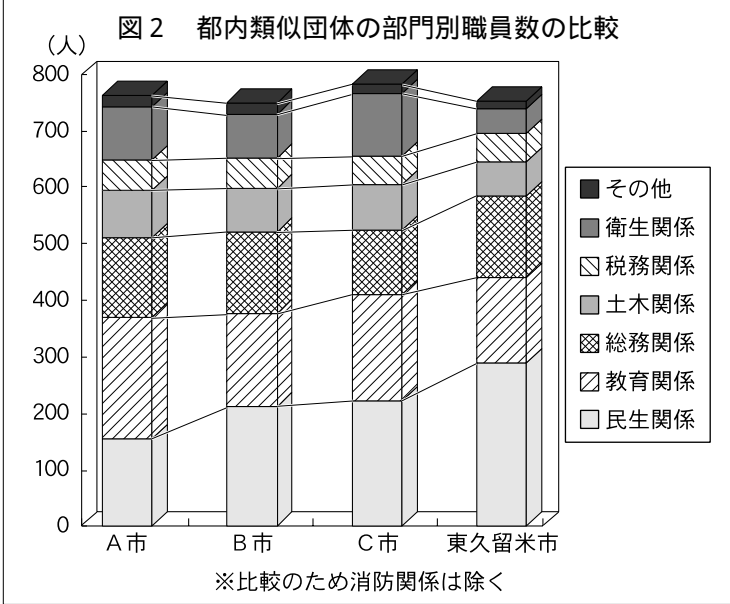
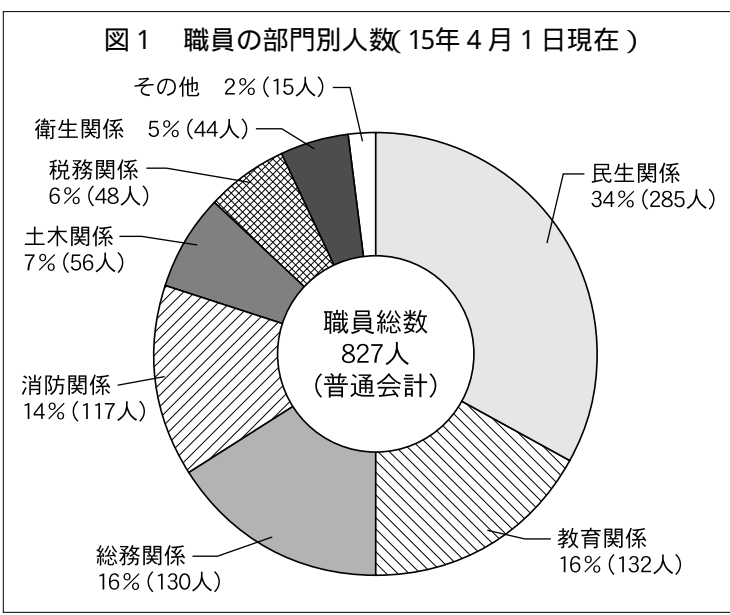
財政危機に直面した今、市に求められているものは何でしょうか。このシリーズではこれまで主に厳しい財政状況等の中身についてお知らせしてきました。今回は市民への行政サービス供給の基となる職員体制とそれに要する人件費等についてお話ししていきます。

市の歳入全体に占める職員人件費の割合は約3割(14年度決算)ですが、税を中心とする經常的な歳入に占める割合となると37%にも達しています。このように歳入の中身の枠組みに多大な影響を与える人件費の実態について皆さんと考えていきたいと思っております。

行政サービスを提供する職員体制はどうなっているの？

市には約900人の正規職員がいますが、これらの職員は市が現在実施している各種行政サービスが適正に運営されるよう、各部門に配置されています。

この数字を、当市とほぼ同規模の都内3市と比較してみたいのが図2です。職員総数(消防関係を除く)はほぼ同じです。当市の特徴として、民生関係に多くの職員を配置



職員の人件費にどのくらいかかっているの？

14年度決算に基づく職員人件費の総額は約90億円でした。これら人件費の充当財源の大部分は使途が特定されていない一般財源(市の自由裁量で使い道が決められる歳入財源)で、さらに前段でも述べたようにこの一般財源の37%を人件費が占めています。当市職員の年齢構成(高齢化)や自治体消防を実施しているなどの影響もあり、他市に比べてこれらの数値が高めではあるものの、人件費を抑制することが財政余力を生む有力な方策の一つであることは間違いありません。

している状況がお分かりいただけると幸いです。



しかし職員の数やサービスを削減し、今の行政サービスのレベルを下げ、人件費を抑えればそれでいいのでしょうか。そこにはやはり個々の行政サービスの性格およびコストを認識した考え方が欠かせず、これらを市民の皆さんに理解していただくことが必要ではないかと考えます。

いままでどんな改善をしてきたの？

市では10年度より、少数の職員数で最大の効果を上げることを目的に職員の定員適正化計画を策定し、本年度まで着実に定員適正化を実施してきました。その基本的な考え方は次の通りです。

- 民間委託等の推進
- 情報化による効率アップ
- 嘱託職員等の活用
- 事務事業・執行体制の見直し

これらに基づき、6年間で

今までの手法を変えて、利用者の視点に立った新しい取り組みを始めるんだね。



これから何をしようとしているの？

市は8年度から15年度まで二次にわたり実施した行政改革の効果の中心は、人件費にかかわるものです。今後行政評価制度を見直しの道具として、新たな改革に取り組むますが、人件費の抑制・削減は当然のことと考えます。

また、市民への行政サービス提供の形態を見直ししていくという議論があります。例

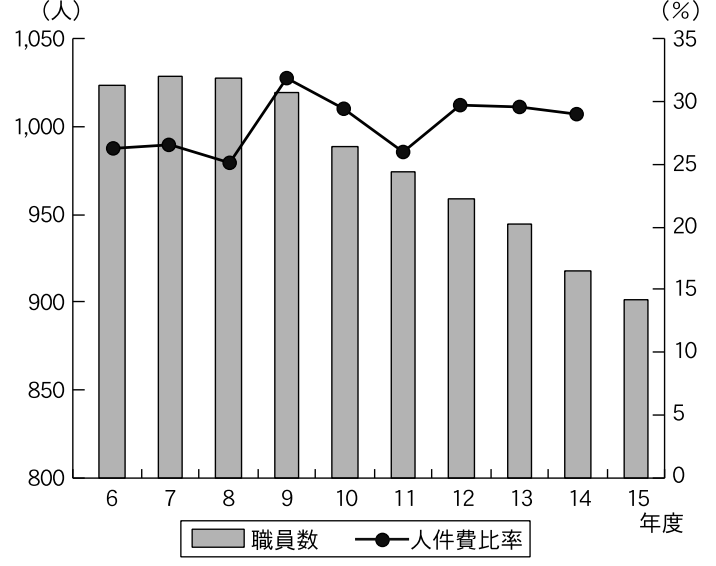
経済性
プライバシーの保護
将来組織との整合性

これからは、市民に対する行政サービスを誰が、または誰とチームを組んで提供すれば市民に対してより低コストで、より高い質になるのかといった視点を柱に、行政サービス提供の形態そのものを見直していかなければならないと考えています。

表1 施設等利用者一人当たりの年間支出額&人件費(14年度決算数値)

区分	利用者等の人数(人)	支出総額(百万円)	人件費総額(百万円)	一人当たり支出額(円)	一人当たり人件費(円)
保育園	平均園児数 853	1,696	1,310	1,988,277	1,535,756
学童保育所 学童クラブ	平均在籍児童数 721	355	201	492,372	278,779
児童館	利用者数 156,519	115	68	735	434
幼稚園	利用者数 189	116	81	613,757	428,571
図書館	利用者数 286,762	365	208	1,273	725
公民館	利用者数 139,419	164	67	1,176	481

図3 職員数および決算額に対する人件費比率



わたしの見てある記

市長 野崎重弥

懸案課題の「駅東口エレベーター」が完成し、10月16日に利用が開始されました。これまで、設置を望む多くの声が寄せられ、交通バリアフリーの視点からも必要と判断し、関係機関と協議を重ねてきました。国・都・市・西武鉄道がそれぞれ費用を負担しましたが、市の負担は全体の6分の1で事業を行うことができました。これにより、高齢者・障がい者の皆様に優しいバリアフリーの駅が完成しました。ご協力いただいた方々に御礼申し上げます。

11月5日には、東久留米市消防団員2名と消防団が、東京都消防褒賞を受賞しました。消防団員は市内に222名、生業を持ちながら、地域の防火・防災活動を行っています。個人・団体が同時に受賞されたことを大変うれしく思います。これまでのご苦労に御礼申し上げますとともに、活動中の事故には十分注意して、市民のために活動いただきたいと思っております。火災シーズンを迎えますが、皆様も火の元には十分注意してください。

なお、消防団は、12月25日から30日未明まで、年末特別警戒に当たっていたと予定です。年の瀬のお忙しい中、毎年ありがとございます。